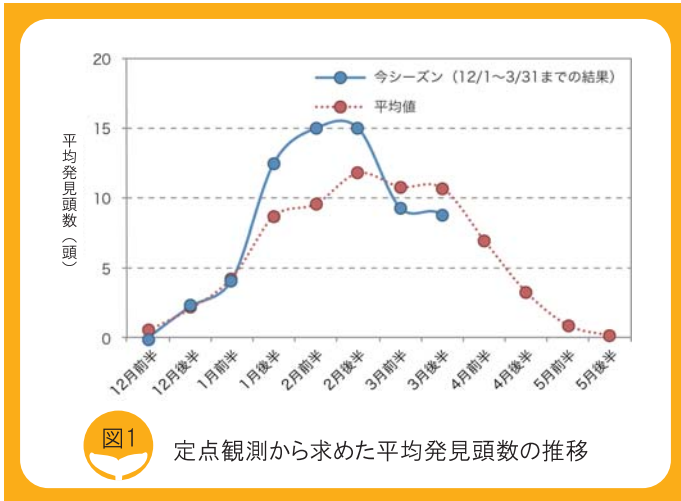


# イルカ通信

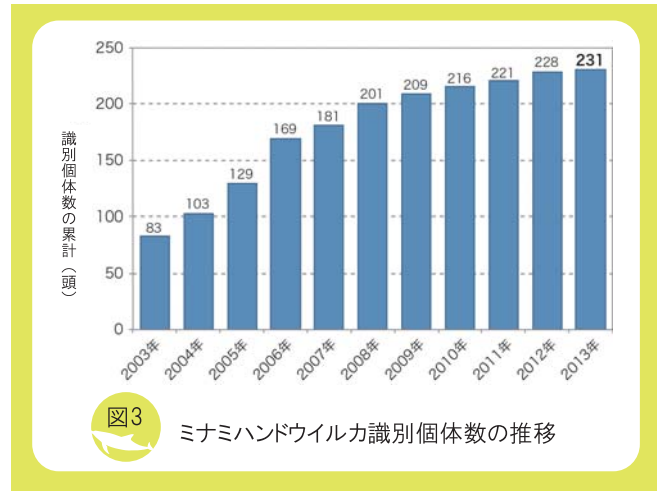
隔月1回発行  
バックナンバーは無料でダウンロードできます  
(下記参照)

## 「ザトウクジラの来遊状況とイルカ調査から分かったこと」

今月のイルカ通信では、2014年3月いっぱいまで行った、定点観測の結果をお伝えします。

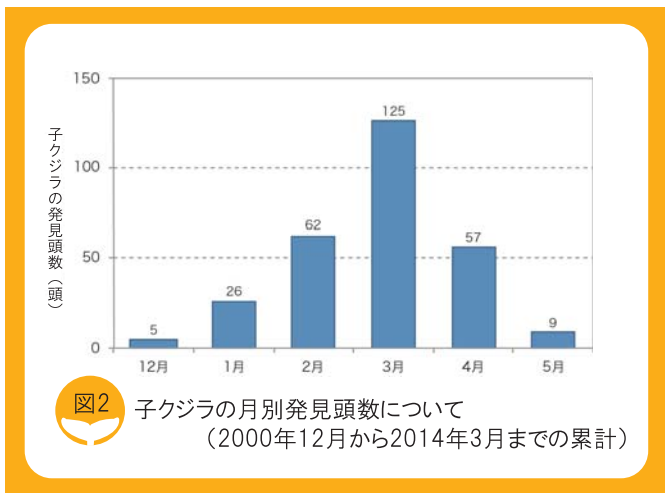


4月以降も子クジラが見られると思いますが、5月に入るとミナミハンドウイルカの新生児も見られるようになってきます。これまでに実施してきたイルカ調査の結果から、小笠原のミナミハンドウイルカの出産時期は、5月から10月の間であると考えられています。また、出産間隔の平均は約3年で、最短で1年、最長で6年であることも分かってきました。昨年までに実施したイルカ調査から、これまでにのべ231頭のミナミハンドウイルカを識別しています。(図3)



上のグラフは、半月ごとに発見頭数を算出し、今シーズンと過去の平均値を比較したものです。今シーズンは、1月後半から2月後半まで、例年以上に多くの発見がありました。3月に入ると前半は例年並みに落ち着き、3月後半の発見頭数は、少し減少しています。

今シーズンは、このまま減少してしまうのでしょうか？これからもザトウクジラの動向に注目していきたいと思えます。



クジラもイルカもウォッチングの対象となっていますが、ウォッチング活動に対して鯨類が見せる反応は様々あります。短期的な反応としては、逃避行動や潜水時間の増加などがあり、過度なウォッチングが続いた場合、生息海域の変更や個体数の減少などが起こるかもしれません。これからも子どもの成長を暖かく見守りつつ、親子に配慮したウォッチングを行っていきましょう。



ミナミハンドウイルカの子供

そして3月に入ってからのもう一つの傾向は、2月よりも今シーズン生まれたと思われる子クジラの発見が増えたことです。これまでの定点観測の結果からも、子クジラの発見は3月に多いことが分かっています。(図2)